

□連載小説 12

キリシタンの墓

小山牧子
え・石阪春生

迷路 (1)

あらずし 二年前短期大学を卒業した佳は、母親蘭子との生活に息づまりを感じ、米国系海運会社のエージェントに勤めに出ることにした。ある夜ボスのヒギンズ氏とともに訪れた願成寺で、佳は村重船長と名乗る老人に会う。なぜかこの老人にひかれた佳はある日願成寺を訪ねこの老人の部屋の飾り台の上に、すでに褐色に色をかえた若き頃の自分の父、村林裕作の写真を発見する。老人の口から解き明された、自分の今まで知らなかった、この老人と父の秘密に佳の心は激しく動揺した。

「ねえ、ママ。わたしの名前だけど、佳なんて変わった名前、だれがつけたの？」

上沢の願成寺から、逃げるようにして館に駆けもどった日から数日後の夕食とき、むきあって坐る母の蘭子に佳はさりげなく言葉をかけた。が、いつにもましてかけりをおびた佳の目は、蘭子の表情にあらわれるささいな変化をも見落とすまいとするかのように注意ぶかく研がれている。

「ケイの名前？まア、変な人ねえ。いまごろになってそんなこと聞くなんて……」

答える蘭子の表情には、みじんの動揺の気配もない。唇だけで笑う例の蘭子特有のいい顔が、中年をむかえた

女の心のゆとりを感じさせ、その余裕のあるさまが、若い佳をまたも傷つけた。

そんなとき、佳にできる唯一の抵抗は、自分自身を必要以上に汚してみせることだ。

「煙草吸ってもいい？」

「ケイ……」

眉をひそめ、悲し気な視線をむけてくる蘭子の前で、スラックスのポケットにねじこんでいたロングピースの紙袋をとりだし、その一本に火をつけてやる。願成寺で村重船長に会って以来の数日、不機嫌に黙りこんで過ごした佳である。しかし、きょうは、蘭子とぜひゆっくりと話さねばならない。

村重船長の話の真偽を問うことができないまでも、なにかあの父の過去にまつわりつく薄幸の少女が本当に実在したかどうかぐらいは、蘭子と話すことでたしかめられようではないか。

「ねえ、ケイ。わたしは、もうとっくにパパが得意で話していたとおもっていたのよ」

言い訳がましく言う蘭子の顔にとどけとばかり、紫の煙を勢いよくまともに佳は吹きつける。

「だってケイが生まれる前から、パパはもう佳って名前かんがえて、大きな字で書き残して航海に出ていったんですもの……」

「まあ……。だったら、男の子が生まれたらどうするつもりだったの？」

「男の子だったら、佳の下に悟って字をつけるようにって言いつけられたわ」

「佳悟……。そう、どちらになっても佳って字には変わりがないのね」

佳は、じっと蘭子の表情をうかがい続けた。

「ママ、知ってる？ なぜパパがそんなに佳って字にこだわったのか」

「さあ……」

「佳き人の佳。由緒正しく佳き人である佳、佳、佳か……」

蘭子の注意をひくように、意味ありげな、ゆっくりとした口調で言ってみる。

「かくしたってだめよ。ママ、わたしは知っているんだから。知ってしまったんだから——」

いつの間にか、蘭子の口辺から微笑は消えていた。その表情におもいなしか強いものが漲っている。

「パパがどうして佳という名をつけたがったのか、わたしは知らないわ。たぶん、パパの好きな字だったのだとおもうけど」

——この女狐ノ——

人ごとのような答え方をする蘭子を、佳は憎いとおもった。

「だってママ。わたしはママの生んでくれた子でしょ。パパの言う通りの名前になど、なぜしたの？ なぜ反対しなかったの？」

口調するどく問う佳の目を、蘭子は見返し、

「どうして、ケイ。なぜ反対しなければならぬの？ 佳って名、とても素敵よ。ママも大好きになったんだもの」

蘭子は、佳がもくつくさせた煙草の煙に当惑したかのようを目を細める。と、再び心にゆとりを取りもどしたのか、口辺に微笑の影を宿した。半眼に閉じた目と口辺にただよう微笑——。佳には、その表情が、たかぶる感情の動きを娘の目から遮断するとばかりとおもえる。そしてその一見ゆたかさとも見まがう表情はまた、父にゆかりをもつ若い女について一言半句も蘭子の口から語りあかすことを拒む艱さをも持っていた。

蘭子の強さにはじかれた佳は、空になった食器の中で煙草の火をもみ消し、立ち上がった。

「わたし嫌いだわ。佳なんて名前、大嫌いだわ」

「ケイ……。なぜ？ いままでそんなこと言ったこともなかったのに」

背後から不安気に見送る蘭子を尻目に、佳は足音も荒々しく広間を横切り、自室への階段を駆け登る。

——いいんだ女狐め！ これだから、わたしはママが嫌いなんだ。弱味を見せないで生きてゆくことだけが最上の生き方だとおもいこみ、いつも娘のわたしにさえも打ち解けて話そうとはしない。これだから、パパだって、ママを煙たがるだけで、ちっとも情が移らないでいままできたんだ——

願成寺から車を走らせて館に帰りついたときにそうしたように、佳は再び自室のソファに身体をうずめこみ立てた両膝の上にアゴをのせる佳特有の考えにふけるときの姿勢になった。

きょう、蘭子と打ち解けて話し、村重船長が語った父の秘密の確証をつかみ、もしできれば、その秘密を母の蘭子がどのように受け止め、二十五年近くの結婚生活を続けてきたのかをも聞きただしておきたいとの佳の意図は、蘭子のゆるぎなさの前でもろくもくずれた。

佳は、限りなく孤独であった。娘の問いをはぐらかす蘭子のゆるぎなさは、佳を子供あつかいにしているふてぶてしい中年女の貫禄を感じさせる。

それに、あれほど自分だけのものと信じ、熱っぽく帰

港の日を待ち望んでいる父裕作に、佳にさえもあかきぬロマンスがあったとは――。

佳は、あの日、村重船長にあって以来、自分の内部の密室で自問し自答し続けたきりもない躁言の迷路へと、再びのめりこんでいったのである。

――パパのフィアンセが別にいたなんて嘘っぱちだ。若い青年将校にありがちのちょっとしたエピソードに過ぎなかったのだ。

――ではなぜ、あの老人ははつきりとわたしたち家族のことを知っていたのだ。

――知りあいだったことに間違いない。ささいなエピソードをあんなふうにてっちあげたのは、老人の孤独のせいだろう。

――だけど、それではなぜ、あの老人の話が事実であるとうなずけるほど、佳の両親は冷えきっているのか。佳の友人たちの父母がそうであるように、娘の佳を間にはさんで仲むつまじく外出するといつたほほえましい情景を、佳はかつて見たことがあるか？

――ない。一度もないのだが、それは他の家と異なり、パパもママも忙がし過ぎるからだ。パパは外国航路の船長。ママは女流歌人。平凡な家庭とは違うのだ。



佳の口もとが皮肉な微笑いでゆがんだ。

――だが、そんなことが、パパとママの愛しあえない原因になるだろうか。

――違う。違う！

激しく否定する佳の脳裏を、あの老人の部屋で見た写真の美しい少女の面影がよぎり過ぎた。そして、その面影は、母の蘭子、父の裕作などがある人間臭さ、佳と血をわかちあったゆえに互いにもちあう愛憎の重さわずらわしさ、つまり現実のもつ生臭さを浄化したもののみがつりりんとして澄んだ美しさで佳に語りかけてくるのである。

由佳子／由佳子の話を聞いたときもいまでも、佳はその秘密を佳に對してもった父や蘭子を憎みはしたが、決してあの美しい少女、由佳子を憎むことはなかった。

「由佳子……」 そっと小さく佳はつぶやいてみる。

――由佳子、きれいな人。わたし、ママよりもあんたの方が好きになってしまいたいそうだよ。それにしても変だよ、わたしは、なぜだかあんたのことがもっと知りたいの。わたしのようには船乗りの父親をもつて、病気を患って、淋しく死んでいったんだって……。ママはどうしたの？

躁言の迷路をたどってここまできたとき、佳は凝然として身を起こした。

――そうだ。ママはどうしたの？

老人の話からは、一言も彼の妻についての追憶は語られなかった。彼の妻は死んだのか？ いや、あの老人にま

オール関西

〈4月号予告〉

★特集 心斎橋を考える

対談 中馬 馨大阪市長——井狩大丸社長
座談会

随筆構成 心斎橋物語

銘店を訪ねる 心斎橋20店

★特集 関西と青年会議所

青年会議所関西ブロック会によせて

★グラビア連載企画

関西7人シリーズ② 関西の芸妓はん

And his Ladies② 原清 朝日放送社長

京のやど② 伏見・寺田屋

★異色対談

藤岡啄也——多田道太郎

★連載随想

鈴木 剛 ホテルプラザ社長

★関西をガイドするタウンカレンダー

美術ガイド

映画ガイド

PLAY DRINK

関西の味

★創作

谷間のロビンソン (下) 黒部 享

え・黒崎彰

草書体 猿飛佐助 第二回 神坂次郎

え・片岡慎太郎

表紙 池田遥郎

巻頭詩 伊勢田史郎・カット河野通紀

・オール関西編集部

大阪市北区曽根崎上1丁目30

八千代会館3F TEL (06) 313-2635・0588

つわる暗い影の部分。仕事中に娘を病死させただけで、男はあのようにいびつにゆがむものだろうか。否、否である。佳もちまえの強い好奇心が、再び猛然と頭をもたげた。

——調べてやる。つきとめてやる！



M. S. 11

窓外は、いつか、つぷりと夜の闇に塗りつぶされている。重厚に繁る森と虚空との区別はつかない。樹林からたちのぼるむせっぽい体臭は、墨色の虚空にみち、それは爛熟した春の息吹となって館の周囲と、佳の燃える若い肉体の周囲でうずまいていた。

木立の上の厚い闇の層を、錆びたのこぎりの刃で切り裂くように、野鳥が鋭い鳴声をあげる。

やがて、ソファから立ちあがったとき、佳はその闇の中で燃えさかる一本の若木に変身していた。

——パパの部屋にいこう。あそこには、わたしが知らねばならないことが、ひっそりと隠されているはずだ。パパの部屋へ。さあ、パパの部屋へ！

蘭子の耳にとどかぬように、足音をしのばせて歩く佳の目の前に、無数の闇の迷路が、もつれあいどこまでも続いている。佳は、その迷路の果てに光源のように光る女の白い美しい顔を凝視していた。

——由佳子！！

(つづく)



Mr. Kent
came to Kobe
流行に左右されない
本来のオシャレ
それがKentです
シックな
スコッチ風の店舗
それがFunakiyaです

Kent shop
フナキヤ
元町3 TEL <32> 0356



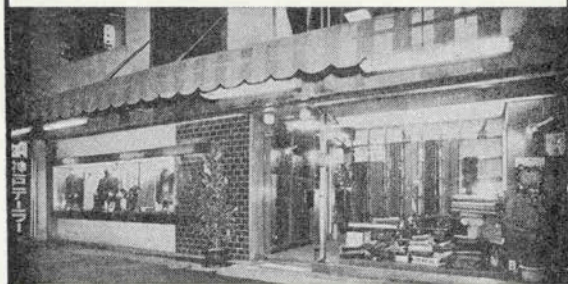
ハイセンスの紳士服で最高のおしゃれを!

三恵洋服店

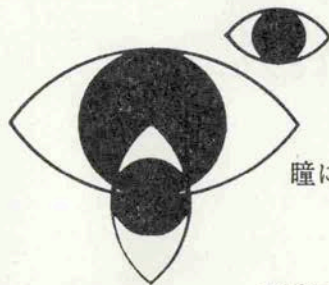
元町4丁目 TEL 34 7 2 9 0

高級紳士服専門店

神戸テラー



さんちかメンズタウン TEL 39 03 88
生田区北長狭通2(阪急西口) TEL 33 2817・3173



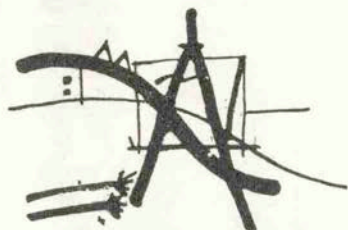
瞳に美しさを保つ
スポーツに
美容に
現代の科学が生んだ
コンタクトレンズ

日本コンタクトレンズ協会会員

国際コンタクトレンズ研究所

神戸市東灘区御幸通八丁目九ノ一 (三宮駅前)
神戸国際会館内 TEL (22) 8161・(23) 2570

額縁絵画・洋画材料
室内工芸品



額 製 積 末

三宮・大丸北
トア・ロード
☎1309・6234



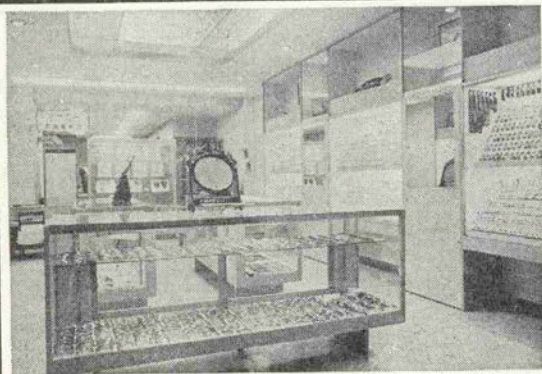
とき 四月十日(土)・十一日(日)
A.M.10:00~P.M.7:00
主 催 神戸国際会館一階
サ ン レ イ

TEL三一九七一三



ヨーロッパ現代画家新作展

一点・一万五千円より平均三万円前後



べっ甲美術品とアクセサリーの専門店

太田 鼈甲店

元町4丁目 TEL☎6195

オリジナル L サイズ

草履新発売

創業明治二十八年

履物の山下

古い老舗に新しいセンス

確実正札 完全冷暖房

静かに品選びの出来る店

神戸三宮センター街 TEL (39) 0256

おすし
てんぷら



栄 彌



営業時間
A.M. 11.30 ~ P.M. 9.00

本店 大丸前・三宮神社東

TEL 33 55772

(毎週水曜日休み)

支店

さんちか味ののれん街

TEL 39 5233

(第3水曜日休み)

やっぱりうまい
むさしのとんかつ



コングラム
ムサシ

でんわ・33-3771

32-3371
32-3371
32-3371



スタンド

香 美

桑 畑 房 子

リラックスした
ひとときを……

コウベビル地下
TEL 33-6763



酒徒なれば
だれもが選ぶ
灘の生一本
大黒正宗

清酒 大黒正宗

安福又四郎商店醸

Stand ザ・3

THE THREE

神戸市生田区下山手通 1丁目5
(ゼウスタウンビル2F)
TEL078(39)4940



★三ちゃんで親しまれている岩崎利之さんがこのほど、東門筋ゼウスタウンビル2階にスタンド「ザ・3」(ザ・スリー)を開いた。ザ・スリーというのはお客さんとお店とお酒の三つの意味があるということで、店内のスタンドは気安い酒好きにぴったりのリラックスなムードづくりをしている。カクテル専門店というだけあって岩崎さんは、昨年のJBA全国コンクールでは全国10人のパーテナーに選ばれ、また昭和33年にはカクテルコンクールで「青い月影」と「カリフォルニアフィーズ」で優勝したという腕きき。洋酒ファンには嬉しいお店のオープンといえる。

水割り ¥350 ビール ¥200 ボルシチ ¥350

P.M.6:00~A.M.12:00 第3日曜日は休み。



DRINKING

SNACK & DRINK

フルール

生田区中山手通 1丁目13
天成ビルB1
TEL39-1366

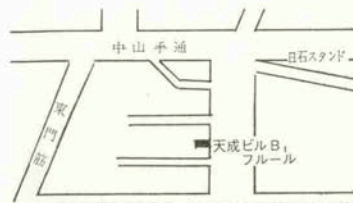


★四月ともなると妙に心がうきうきするものだ。花の香りをいっぱいおせて、暖かい春がやってきたせいかもしれない。昨秋オープンしたばかりのこの「フルール」は今年ではじめて春を迎えた。花がとっても好きだというママの赤沢れい子さんは、そのやさしい人柄で飲む人の心をしらすらすのうちに暖かくつつんでしまう。店内にはゆったりとした広いカウンターの他に、ゴージャスなインテリアのボックス席もあり、クラブのように落着いたムードで飲めると好評だ。また気軽に食事もあるので大変重宝がられている。

ビール ¥250円 カクテル ¥400円 フィーズ ¥400円

ステーキ ¥1,800円と1,000円 パター焼 ¥700円 お茶漬 ¥350円

P.M.6:00~A.M.3:00 第1、第3日曜日は休みます。



曲線ハイウェイ

武田 繁太郎
え・横 塚 繁



★あらずし 浜名湖サーピス・エリアで、多木洋介は若い神戸の女性、宇津康子を知る。MVハードトップを駆って、夕暮と共に、多木は康子とともに館山寺湖畔のホテルに入る。それから十日後、二人は久しぶりに浜名湖SAで逢瀬を持ち、朝霧の高原で愛を確かめあった。身許をあかさうとはしない康子は、その後も十日か半月おきぐらいに、多木にデイトの電話をかけてきた。康子の正体を知るために、多木は神戸出身の友だち岡本和彦を訪ねた。岡本はちょうどそこまで行くかのように女友達ルミと多木を誘って、東名神を神戸に向かった。岡本は浜名湖SAまでノンストップで運転してや々とレストランで一服した。そして目指す神戸にやってきた。多木洋介は、そこで、岡本和彦とその友だちの横井郁夫に逢い、康子の正体をさがし出すための第一歩をふみ出した。

レストランKは、見晴らしのいい背山の中腹にあった。海岸ちかくのOホテルから、一行四人を乗せた岡本の会社の車が、広い大通りを真直ぐ山の手方向にむかい、急な坂道を登りつめた高台の一角に、そのしやれた店があった。

「すばらしい眺めだなあ」

ボーイに案内されて、窓ぎわのテーブルにつくなり、多木は、眼下にひろがる神戸の夜景の美しさに目をみはった。

「この店の自慢の眺めなんです」

横井郁夫が註釈した。

「百万ドルの夜景ってやつですね」

多木も、話にきいていて、うなずいた。ここで、音にきこえたその百万ドルの夜景をながめながら、名物のコーベビーフをたっぷり賞味させようという趣向なのであ

ろう。

「多木は比叡山に登ったことがあるか」

岡本が、料理よりさきに運ばれてきたビールを呑みながらたずねた。多木も、グラスを傾けて言った。

「東名が開通したとき、いちどいったことがあるよ」

「あの山のうえに、Hホテルがある」

「うむ。おれも泊ったよ」

「じゃ、おぼえているだろうが、あのホテルのまえに小高い山があって、山の右手に京都の町の灯がみえ、左手に大津の町の灯と琵琶湖がみえる」

「そういえば、あの夜景もよかったな」

「うむ。地元じゃ、あの山上からの眺めを、二千万ドルの夜景だといってるんだ」

「へーえ。じゃ、神戸のこの夜景とは一ケタもちがうのね？ そんなに、二十倍もすてきな？」

ルミが、おどけたように目をまるくしてたずねた。

「うむ。まあ、すてきはすてきだけだな。地元じゃ、さいしよは、神戸の夜景が百万ドルなら、こっちは、京都百万ドル、大津百万ドルで、合計二百万ドルの夜景にしようかと考えた。だけど、二百万ドルなんて、語呂がわるいし、変わりばえがせん。じゃ、いっそ一ケタあげて、二千万ドルにしちまえてことになったというんだな。ウソかホントか知らんが、観光業者の思いつきそうな話だよ」

「だけど、横文字って、変んなものね」

「どうして？」

「だってさ、百万ドルは三億六千万円でしよう。だけど、百万ドルの夜景って言えば、なんとなくしやれてきこえるけど、三億六千万円の夜景じゃ、サマにならないじゃない？ 二千万ドルの夜景なら、三十六億円の夜景、まるでメロメロ。やっぱり、百万ドルの夜景、二千万ドルの夜景でなくちゃねえ」

「妙な計算をするやつだな」

三人の男たちは笑いだしたが、そこへ、それぞれに焼き

加減を注文したテキが運ばれてきた。

「こりゃ、すごいボリュームだな」

はじめてお目にかかる「本場のテキ」に、多木は感嘆の声をあげた。東京で食べているテキの倍ほどの大きさで、厚さも三センチかくはあろう。ジュツジュツと、まだ音でもたてていそうな、こんがり焼きあがったばかりの肉の肌から、豊潤なビーフ独得の香がにおいたって

いた。

「このボリュームじゃ、食べるって言うよりも、アタックするようなんだな」

多木は、舌なめずりする思いで、フォークとナイフをとりあげたが、厚味のある肉が、ナイフをいれると、弾力がありながら、意外と柔らかい。ひと口、口にいれれば、そのまま溶けてしまいうであつた。ほのかにミルクの匂いがした。これが、ホンモノのビーフの香なのであろうか。

「どうだ？」

岡本が、自分も大きな肉片を頬ばりながらたずねた。

「うまい！」

多木には、うまいと言うよりほか言葉もない思いだった、噛みしめれば、こつてりとしたあぶらが口中にひろがりながら、これも意外なほどしつこさを感じさせない。いくら食べても、これなら、あきさせることはないだろう。

「この店が、神戸でいちばんうまいのか」

「むろん、こども名のおった店の一軒だが、しかし、この店にかぎらん。神戸じゃ、行きずりにとびこんだような店でも、みなうまいテキを食わせるよ。肉そのものもいいからだ」

「東京みたいに、店の構えだけはデラックスで、だされたテキは栃木あたりの百姓牛でがっかり、なんてことはないわけだな」

多木は、窓外をながめながらうなずいた。

すぐ窓の下から、街の灯が、なだらかな傾斜を描いて海

のまぎわにまでひろがっている。今夜は空もよく晴れていて、星屑が大阪湾上いっばいにちらばり、暗い海を間にして、地上の街の灯と舳を競いあっているようだった。あれが波止場のあるあたりだろう。大きな船がみえた。舷側やデッキに点々とともった灯が、船全体をほつとあかるく浮びあがらせている。多木の目には海に浮かんだ幻想の船のように感じられた。潮の香がこの背山の中腹までただよってくるようであった。

東京の高層ビルにも、最上階にレストランのあるビルがふえてきて、どこにもぎわっている。どうやら人間という種族は、高い場所に登って、地上をながめながらめ



しを食うのが好きらしい。もしかしたら、われわれの祖先の原始時代の人間たちが、めしを食うのに、外敵に襲われる危険の少ない高い木のうえに登っていた習性が、二十世紀の現代人にも、いわば本能のようにしみついているのではないか。そうだとすれば、いっぽうでは、ビルの地階などにレストランが多いのも、これまた、原始時代の人間たちが、外敵に発見されにくい穴ぐらなどにもぐって、めしを食っていた習性の名残りだと言えたかも知れない。その当時から、人間は、食うことのたのしみを知っていた食いしん坊種族だったのであろう。

「多木は、魚は好きか」

岡本が、思いだしたようにたずねた。

「魚か。あんまり好きじゃないな」

多木は、このごろの若者らしくこたえた。

「鰯は好きだがな。にぎりにのっかっている魚なら、なんでも食うよ」

「多木は東京育ちだったな」

「うむ。箱根から西はあんまり知らんほうだよ」

「だからだ。東京の連中は、ほんとうの魚のうまさを知らんから、魚が好きになれないんだ」

「どうも魚というやつは、食うとき、あの骨が苦手だな」

「そりゃ、魚を毛嫌いして食いつけんから、食い方が下手なんだよ。神戸は、肉もうまいが、魚もうまい。おれなんかも、子供のころから魚を食って育ってきたので、いまでも、肉も好きだが、どちらかと言えば、魚のほうが好きなくらいだ。よく神戸へ帰ってくるのも、神戸のうまい魚が食えるというたのしみもあるからだ」

「そんなものかね——」

多木は、魚など、鰯ダネ以外は、年寄りが好んで食うものだと、思いこんでいた。肉より魚が好きだと言う若者など東京ではめったにお目にかかったことがない。彼は、いささかあきれ顔で、岡本の顔をながめた。

「どうだ。あすはひとつ、うまい魚をご馳走しようか」

岡本が言いだした。

「そうだな。後学のために、魚というものがどんなにうまいものか、ご教授にあずかろう」

「よし。じゃ、明石にでも食いにいこう。とびきりうまい、生きたやつをご馳走する」

岡本は、自分のこのように張りきって言った。この若者は、年に似あわず、相当の魚マニアであるらしかった。

どこからともなく、ソフトな音楽がひびいてきた。演奏のようであるが、この店にはバンドマンの姿はみあたらない。

「ああ。あれは、階下のクラブで演奏しているんです」横井が、不審そうにあたりをみまわしている多木に言った。

「ここは、上がレストラン、下がクラブになっているんだ。あとで、ちょっとクラブのほうにも寄ってみよう」

岡本が言った。

コーベビフをたっぷりたんのうして、デザートもすましたところで、四人は、階下のKクラブへおりていった。

このクラブも、神戸では名のとった店らしく、広い店内にはおちついたムードがあり、酔客たちも、上客らしい年配の紳士が多かった。外人客の姿もみうけられた。

多木は、ふと、宇津康子もこの店は知っており、もしかしたら、今夜も、偶然いま、だれかとやってきているのではないかと、そんな予感をおぼえた。

彼の眼差しは、無意識に、ほの暗い店内のあちこちにうごめく人の影を追っていた。だが、むなしい妄想にすぎなかった。彼の目がとらえたのは見ず知らずのさまざまに装った女たちの姿ばかりであった。

「なにをきょんとした顔してるんだ？」

岡本がにやにや笑いながら言った。

「わかってるよ。いま、横井が電話をかけにいったる」

そう言えば、さっきから、横井がいなくなっていた。

「もうすぐ、召集をかけられたお嬢さん方がやってくるだろう。待っているよ」

言い残すと、岡本は、ルミの腕をとって、フロアのほうへでていった。

へつづく

＜神戸の催し物 4月ご案内＞

＜音楽＞

★ブルガリア男性大合唱団

4月5日(月) P.M. 6:30開演 神戸国際会館
入場料 S¥1400 A¥1400 B¥1200 C¥900
学生¥700

指揮/ジミートル・ルスコフ教授 外30名

★アルフレッドハウゼン音楽団

4月9日(金) P.M. 6:30開演 神戸国際会館
民音 A¥1600 B¥1200

★フォーク・グループ「赤い鳥」公演

4月12日(月) P.M. 6:30開演 海員会館 労音
会費750円

★オズモンドブラザーズショウ

4月13日(火) P.M. 6:30開演 入場料 S¥2300
A¥2200 B¥1800 神戸国際会館

★セルジオメンドスコンサート

4月19日(月) P.M. 6:30開演 神戸国際会館
入場料 特¥2700 S¥2400 A¥2000 B¥1700
C¥1500

★オスカーピーターソントリオ

4月20日(火) P.M. 6:30開演 神戸国際会館
入場料 A¥1800 B¥1600

★橋幸夫ショー

4月24日(土) P.M. 2:00と6:30開演 神戸国際会館
民音 会費850円

★ゲルバーピアノリサイタル

4月26日(月) P.M. 1:00開演 神戸国際会館
民音会員

★リリークlausピアノリサイタル

4月28日(水) P.M. 6:30開演 神戸国際会館
労音 会費1500円

★ダニエルビタルキャンペーン

4月30日(金) P.M. 6:30開演 神戸国際会館

＜舞踊＞

★花柳芳五三郎舞踊の会

4月4日(日) A.M. 10:00開演 神戸国際会館
入場料 ¥1500

★サラ・レサーナとフラメンコ舞踊団

4月27日(火) P.M. 6:30開演 神戸国際会館
労音 会費 1100円

出演/サラ・レサーナ、ミゲル・サンドバル、アントニオ・ビジャヌエバ、ペピン・サラキール、ファン・サラサル、ベドロ・クアドラ

＜演劇＞

★俳優座公演「ハムレット」

4月15日(木)、11(金)、17(土) 毎夕6:15 開演
神戸国際会館 労音 会費650円 作/シェイクスピア
演出/増見利清 出演/山本圭・佐藤オリエ他

＜美術＞

★金山平三展

4月13日(火)～4月25日(日) 県立近代美術館

★小磯良平展

4月29日(木)～5月23日(日) 県立近代美術館
A.M. 9:20～P.M.5:00 (但し入場は4:30まで、月曜休館)

神戸百貨会

Kobe High Class Shop Group

*宝飾品 Jewl・Pearls

- ①宝飾 御木本真珠店 Mikimoto Pearls 店 国際会館1階 0220 0 6 2
②宝飾 田崎真珠店 Tasaki Pearls 店 さん 3F 039 4 0 8 5
③宝飾 北村真珠店 Kitamura Pearls 店 元町通二丁目 033 0 0 7 2
④宝飾 タジマ jewels 店 元町通二丁目 033 5 7 6 1
⑤時計と宝石 美田時計店 Mita Watch Shop 店 元町通三丁目 033 1 9 9 8
⑥宝飾 神戸宝玉石 店 トアロード 033 2 3 9 7

*紳士洋服・洋品 Tailor & Men's Shop

- ⑦紳士服 柴田音吉洋服店 Tailor Sibata 店 元町通四丁目 034 0 6 9 3
⑧ネクタイ 元町バザール Motomachi Bazaar 店 元町通一丁目 033 4 0 1
⑨紳士服 三恵洋服店 Tailor Mituei 店 元町通四丁目 034 7 2 9 0
⑩男子洋品 フナキヤ Funakiya 店 元町通三丁目 032 0 3 5 6
⑪紳士服 十字屋洋服店 Tailor Jujiya 店 元町通五丁目 034 2 5 3 8
⑫洋品雑貨 サノヘ Sanohe 店 元町通二丁目 033 4 7 0 7
⑬ワイシャツ 神戸シャツ Kobe Shirt 店 元町通二丁目 033 2 1 6 8
⑭紳士服 洋服の粹 渡辺 Watanabe 店 センター街 033 1 6 5 0
⑮衣生活品 ニッケショールーム Nikke Showroom 店 元町通三丁目 033 0 0 1
⑯紳士服 神戸テーラー Kobe Tailor 店 阪急西口・西 033 2 8 1 7
⑰紳士服飾 ウネ Men's Shop Une 店 元町通一丁目 033 3 1 1 2
⑱紳士シャツ 大和屋シャツ Yamatoya Shirt 店 元町通二丁目 033 6 9 5 6

*婦人洋装・洋品 Ladie's Shop

- ②④帽子 マキシム Maxim 店 トアロード 033 6 7 1 1
②⑤服飾雑貨 エスターニュートン Esther Newton 店 トアロード 033 1 3 1 8
②⑥洋品 スギヤ Sugiyu 店 トアロード 033 3 4 3 6
②⑦ハンドバック シラサ Shirasa 店 元町通二丁目 033 0 8 1 3
ベビー用品 ファミリア Familiar 店 元町1丁目 033 5 5 5 5
子供服 オカダ Okada 店 トアロード・センター街角 033 0 0 5 1

- ②⑧洋装 Masuya ス ヤ ヤ センター街・元町3丁目 032 2 7 8 1
②⑨婦人服飾 ベニヤ Beniya ニ ヤ センター街・大丸前 033 4 6 2 4
②⑩婦人・紳士服 セリザワ Serizawa ザ ワ センター街・大丸前 033 4 6 2 4
②⑪毛皮店 ベニー毛皮店 Bennie Furrier (Furs) 店 国際会館一階 033 1 8 3 3
②⑫高級婦人服店 コマツ KUMATUYA ツ ヤ センター街・さん 033 1 8 3 3
②⑬お仕立て三 San-ai 店 センター街・さん 033 1 8 3 3

*装身具・服飾品 Accessory・Dress

- ②⑭ベッ甲 太田ベッ甲太 Co. (Tortoise-shell ware) 店 元町通一丁目 033 6 1 9 5
②⑮ハンドバック イクシマヤ Ikushimaya ヤ ヤ 元町通一丁目 033 2 4 1 5
②⑯アクセサリー 芸夢 Geimu トアロード 033 2 2 9 3
②⑰婦人・紳士靴 クロス靴店 Cross Shoes 店 トアロード 033 1 7 8 1
②⑱婦人・紳士靴 ヨシオカ Yoshioka Shoes 店 センター街・大丸前 033 5 1 9 0

*和装 Kimono・Geta

- ②⑲呉服 ちんがら屋 Chingaraya 店 センター街 033 8 3 6
②⑳呉服 みよしや Miyosiya 店 センター街・大丸前 033 3 3 8 8
②㉑衣裳 中川衣裳店 Nakagawa 店 センター街 033 7 5 2 4
②㉒衣裳 つるや衣裳店 Turuya 店 センター街・大丸前 033 0 3 6 0

*美容 Beauty Shop

- ②㉓美容 ブルーズあきら Blue's あきら 店 北野町3 022 9080
②㉔美容 ローズあきら Rose's あきら 店 三宮本通り 033 4461
②㉕美容 美容室エリザベス Elizabeth Beauty Shop 店 本店・生田 033 8 8 9 4
②㉖美容 美容室エリザベス Elizabeth Beauty Shop 店 三宮・生田 033 4 9 1 7

*美術・工芸品 Art

- ②㉗美術 元町画廊・若木屋 Motomachi Gallery 店 元町通一丁目 033 2 3 5 9
②㉘画材・顔料 末積製額 Suezumi 店 トアロード 033 1 3 0 9
②㉙工芸 磯川工芸店 Isokawa 店 トアロード 033 3 3 9 8
②㉚美術陶磁器 淡洲堂 Tanshudo 店 センター街 033 7 7 0 7
②㉛新古美術 播新 Harishin 店 元町通三丁目 033 2 5 1 6

*家具 家庭・文化用品 Furniture・Family

- ②㉜家具 永田良介商店 Nagata Ryosuke Shop 店 大丸前・元町 033 7 7 7 7
②㉝玩具 カメヤ Kameya Toy Store 店 元町通三丁目 033 4 9 6 9

- ②㉞メガネ 神戸眼鏡院 The Kobe Optical Co., Ltd. 店 元町通三丁目 033 1 2 1 2
②㉟カメラ コヤマカメラ Koyama Camera Shop 店 センター街 033 0 1 5 8
③①儀式用品 富田屋 Tomitaya 店 元町通四丁目 034 7 2 7 6
③②カメラ 大上靴店 Oue Trunk Co. 店 元町通一丁目 033 3 9 6 2
③③ゴルフ用品 タカハシ GOLF & BAG TAKAHASHI 店 元町通三丁目 033 1 1 7 2
③④電器製品 元町家庭電器販売 K K Motomachi Electric Co., Ltd. 店 元町通六丁目 033 0 0 8 1
③⑤薬品 三星堂薬局 Sanseido Pharmacy 店 元町通六丁目 034 0 3 3 0
③⑥メガネ 服部メガネ店 Hattori Optical Shop 店 元町通三丁目 033 1 1 2 3
③⑦結婚儀式用品 遠藤福寿堂 Endo-Fukujudo 店 トアロード・長田 033 1 8 7 1
③⑧写真スタジオ ボンヌール写真室 Bonheur 店 生田神社前 033 6 6 8 7

*ボーリング Bowling

- ③⑨ボーリング 神戸スターレーン Kobe Starlane 店 市役所西側 034 4 1 5

*菓子・喫茶 Cake・Tea-room

- ③⑩和洋菓子 風月堂 Fugetsudo 店 元町通三丁目 033 2 4 1 2
③⑪瓦煎餅 亀井堂本家 Kameido Honke 店 トアロード 033 1 6 1 5
③⑫菓子 雁治郎飴本舗 Ganjiroame-Honpo 店 元町通二丁目 034 1 2 4 2
③⑬洋菓子 ドンク Donq 店 センター街 033 5 4 8 1
③⑭チョコレート モロゾフ Morozoff 店 さんちかスイーツタウン 033 1 4 4 6
③⑮ドイツ菓子 ユーハイム Yuchheim's 店 生田神社前 033 1 6 9 4
③⑯洋菓子 ヒロタ Hirota Confectionery 店 元町通三丁目 033 3 4 0 1
③⑰洋菓子 ユーハイムコンフェクト Yuhaim Confectionery 店 センター街 033 2 4 2 1
③⑱和菓子 二つ茶屋 Futatsuchaya 店 元町通一丁目 033 0 7 5 5
③⑲菓子 本高砂 Hon-Takasagoya 店 元町通三丁目 033 3 3 6 7
③⑳フランス菓子 ベル Bell 店 三宮・センター街 033 0 0 2 1
㉑瓦煎餅 河南堂 Kanando 店 三宮・山側 033 1 0 6 1
㉒チョコレート コスモポリタン Cosmopolitan 店 三宮・山側 033 1 2 1 7
㉓瓦煎餅 菊水総本店 Kikusui Sohonten 店 三宮・山側 033 1 8 0 1
㉔喫茶 UCウエシマコーヒショップ UC Coffee Shop 店 さんちかスイーツタウン 033 5 6 7 7
㉕洋菓子 アルモンド Almond 店 元町通二丁目 033 2 0 0 3
㉖チョコレート ゴンチャロフ Goncharoff 店 さんちかスイーツタウン 033 3 5 6 3

- ㉗和洋菓子 本舗 Kotobuki-Honpo 店 三宮・西口 033 6 8 1
㉘和洋料理 Eating House 店 三宮・西口 033 6 8 1
㉙日本料理 竹葉亭 Chikuyotei 店 三宮・西口 033 6 8 1
㉚天婦羅 大川 Okagawa 店 三宮・西口 033 6 8 1
㉛ふぐ料理 一富士 Ichifuji 店 三宮・西口 033 6 8 1
㉜寿司 本成駒家 Hon-Narikomaya 店 三宮・西口 033 6 8 1
㉝とんかつ 武蔵 Musasi 店 三宮・西口 033 6 8 1
㉞スペイン料理 カルメ Carmen 店 三宮・西口 033 6 8 1
㉟欧風料理 ハナワ Grill Hanawa Grill 店 三宮・西口 033 6 8 1
㊱ビヤ・ホール ニュー・トーキョー New Tokyo 店 三宮・西口 033 6 8 1
㊲海川魚 時雨茶屋 Shigure Jaya 店 三宮・西口 033 6 8 1
㊳軽料理 蛸の壺 Takonotsubo 店 三宮・西口 033 6 8 1
㊴レストラン コラルキタノ Coral Kitano 店 三宮・西口 033 6 8 1
㊵レストラン ブランドウブラン Blanc de Blanc 店 三宮・西口 033 6 8 1
㊶ふぐ・天ぷら・寿司 栄弥 Sakaeya 店 三宮・西口 033 6 8 1
㊷寿司 又平 Matahei 店 三宮・西口 033 6 8 1
㊸神戸肉 大井肉店 Ooi Beef Shop 店 三宮・西口 033 6 8 1

*クラブ・料亭 Night Club

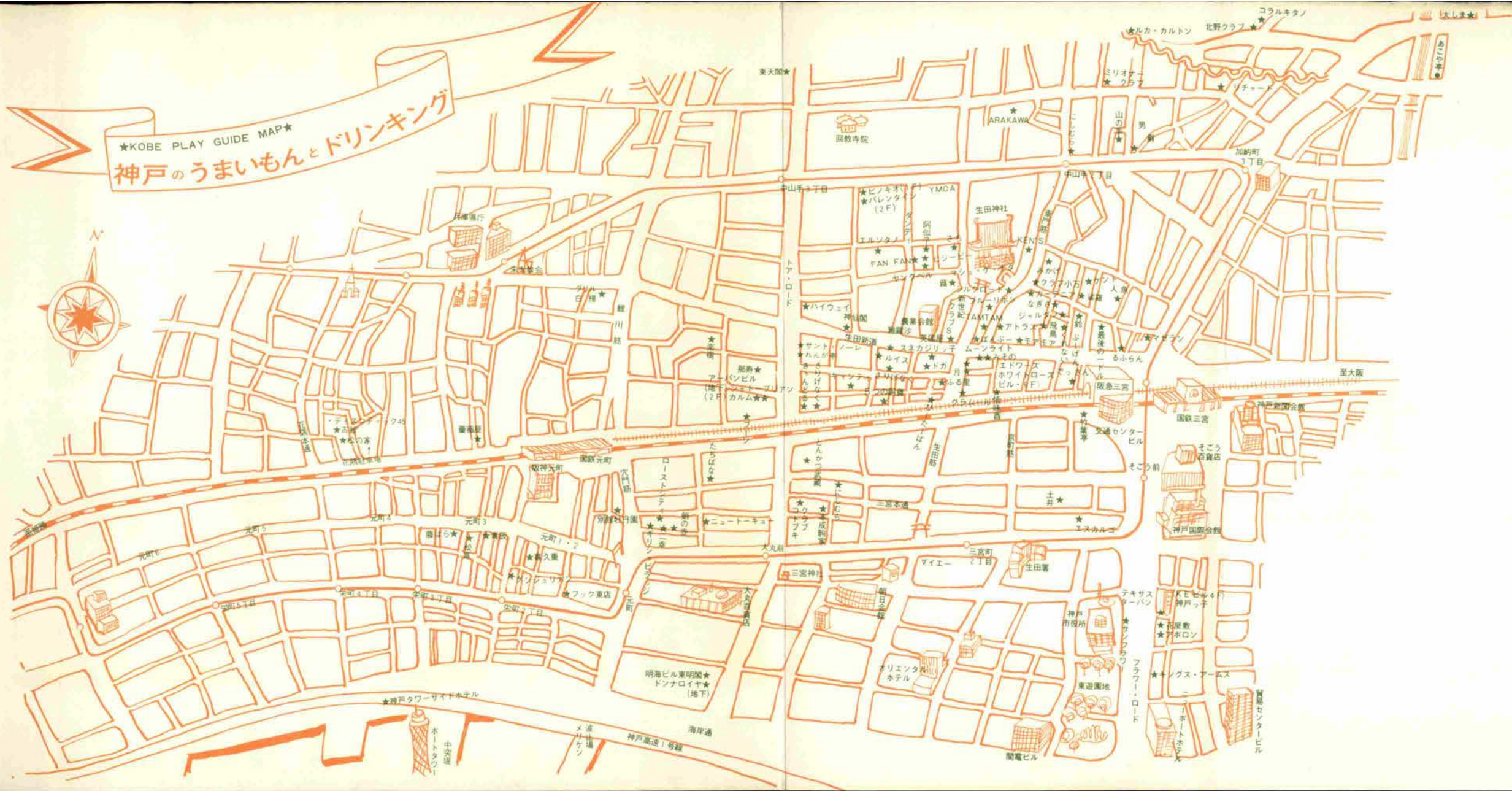
- ㊹料亭 松の家 Matsu no ya 店 三宮・西口 033 6 8 1
㊺ナイトクラブ 北野クラブ The Kitano Club 店 三宮・西口 033 6 8 1
㊻クラブ ディスコティック45 店 三宮・西口 033 6 8 1
㊼ホテル 神戸オリエンタルホテル Oriental Hotel 店 三宮・西口 033 6 8 1
㊽ホテル 六甲オリエンタルホテル Rokko Oriental Hotel 店 三宮・西口 033 6 8 1
㊾観光旅館 有馬温泉(東有馬)古泉閣 Kosenkaku 店 三宮・西口 033 6 8 1
㊿ホテル 神戸タワーサイドホテル KOBE TOWER-SIDE HOTEL 店 三宮・西口 033 6 8 1

*商社 Trading House

- ㊿ビール 朝日麦酒 K K Asahi Beer 店 三宮・西口 033 6 8 1
㊿電化製品 ナショナル電化センター National Electric Center 店 三宮・西口 033 6 8 1
㊿銀行 神戸銀行 Bank of Kobe 店 三宮・西口 033 6 8 1
㊿珈琲・紅茶 UCC上島珈琲本社 店 三宮・西口 033 6 8 1

★KOBÉ PLAY GUIDE MAP★

神戸のうまいもん＆ドリンキング



YATSUKA CHAIN

Snack Drink

DOGA

ドガがお贈りするニューヨークシステム！

一枚のチケットでTamTam-DOGA-Londonpubと
三軒のお店のハシゴができます。

DOGA

タムタム

ロンドンパブ



白樺のもとで語りあい、ムードも最高に楽しめるお店。
生田神社南 ユーハイム横入る TEL 33-4560

Drink Stand

DOGA



舶来居酒屋

ロンドンパブ

古きヨーロッパ芸術の粋をあつめた格調あるインテリア
三宮東門筋東新ビル地階 TEL 33-9090

神戸で最初の本格的パブ方式の店。

東門筋ふじやビル1F TEL 32-0529

●串かつの店— TEL 34-1493

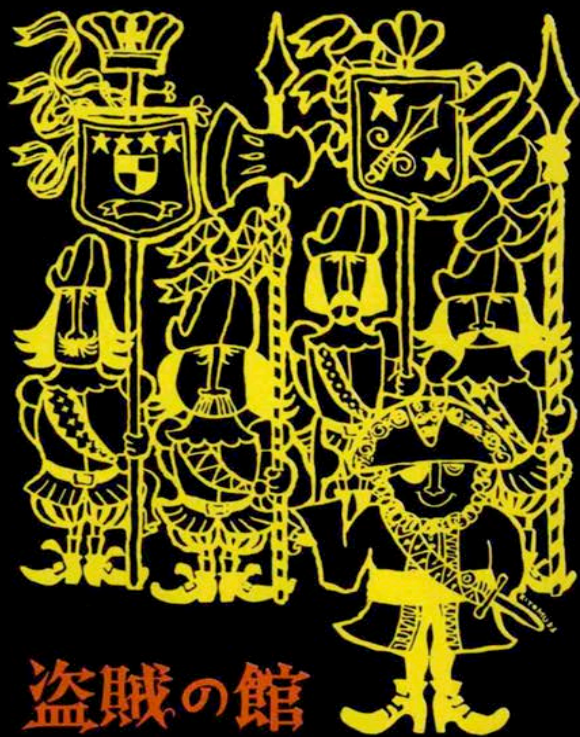
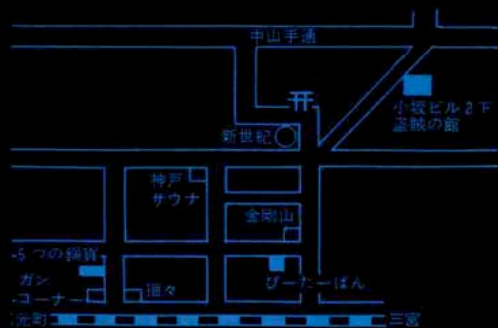
湊川神社前 菊水せんべいビル地階

●純喫茶 スカーレット TEL 35-1149

湊川神社前 菊水せんべいビル1F

●カレーショップニュースカーレット

メトロコウベ地下街 TEL 34-7920



盗賊の館

でんわ 32・1548



でんわ 39・1438

5つの銅貨

GRATIN HUT
CROQUETTE
IN THIS
SHOP
TASTES
WONDERFUL!





DRINK & SNACK
スネカシリ子

中山手通2丁目13
永晃ビル地下
TEL 39-8708



Restaurant Bar

最後の1ドル

生田区北長狭通1-41
チェリービル3F
TEL 39-2173

KOBE DRINKING GUIDE

RESTAURANT & COCKTAIL LOUNGE



night spot
LUCKY HILL

中山手通2の75
伊藤ビル5F
TEL. 39-8843
39-8844



club

ルイス

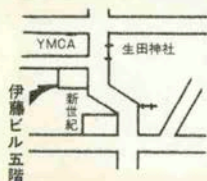
生田区下山手通2-29
コウベビル地下
TEL 39-5065



★4月にもなると冷たい六甲おろしもやわらぎ、暖かい潮風が春の香をのせて神戸を訪れてくる。ここ、生田新道沿い農業会館向いにある“スネカジリッ子”にも春が訪れ、皆の顔にも若やいだ楽しさがあふれている。ダーク調の大変シックなインテリアに囲まれ、若くてダンディなバーテンさんたちとの楽しい会話が飲む人の心と心を結んでしまう。一杯のグラスが隣りに坐った見知らぬ人をもたちまち百年の知己にしてしまう、そんな素適なムードをもっているのがこのスネカジリッ子です。
水割G & G ¥ 300円 ビール(小) ¥ 200円 おつまみ ¥ 100円
ピッツア ¥ 350円 ミニチュアピン(W) ¥ 500円



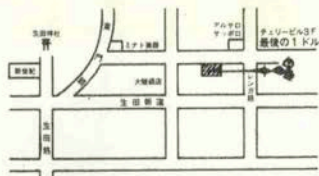
スネカジリッ子



ラッキーヒル

★生田神社西側、伊藤ビル五階に昨秋素晴らしいナイト・スポット“ラッキー・ヒル”がオープンした。ダーク調のゴージャスなインテリアとゆったりとしたテーブルで一流ホテルなみの食事が楽しめ、毎晩7時からピアノの弾語りやラッキー・川端氏の素晴らしいジャズボーカルが聞けるのもここならではのもの。フロアがあり歌に合わせて楽しくダンスもできるし、かわいいパニーニガールも色をそえている。客筋は音楽関係の芸能人や外人が多いのもこの店の特色だ。どなたでもお手軽な料金でハイクラスの落ち着いた大人のムードをお楽しみになれます。
P.M. 6:00~A.M. 2:00 年中無休です。

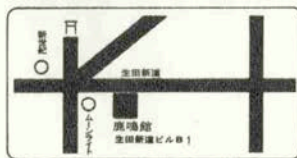
★生田新道のレンガ筋を北に入った左に、大変シックな英国調の格調高いインテリアムードが溢れる“最後の1ドル”がある。ゆったりとした落ち着いたスペースに、関西で初めての自動ピアノ(米国製キンボールピアノ)が軽快なメロディをかなで、その美しい音色に驚かされる。又、毎晩7時からトニー・橋場さんがピアノとエレクトーンを生演奏し飲む人の心をやわらげ、楽しませてくれる。今春はじめて社会に出たフレッシュマンやオフィスレディの皆さんも安心して気持ちよく飲める店です。
ビール ¥ 250円 その他オールド・ミネラルまたはコーラ割り ¥ 1ドル(360円) テーブルチャージなし
P.M. 6:00~A.M. 2:00 年中無休です。



最後の1ドル

KOBE GUIDE

鹿鳴館



★春の霧が夜の生田新道にひろがる頃、スタンドグラスの輝きが心を捕える。分厚い荘厳なトビラを押し開くと明治の最盛期鹿鳴館の優雅なムードを演出する、およそ100年前の蓄音機・電話機・ランプ・シルクハット・チター etc と骨董品がずらり。タキシードの男爵と華麗な貴婦人が夜々夜々出没する? 鹿鳴館。

未知の人と友達になりたい方、ピアノやギターを弾いてバンド演奏をなさりたい方、個性のあるクレージーなマスター“ゴリさん”と男奥さんの陳さん2人があなたのフリースタイルを満足させる。

ホッパ的に中西画伯夫婦直伝の料理も出てくることもある“本物がある店”とはお客様の声。

ビール ¥ 200円 付き出し ¥ 100円 一品料理 200~300円

P.M. 6:00~P.M. 12:00まで

オフィスレディの悟味西訪問 〈33〉



★こころよい春風が吹いてくる夕暮れには

季節がいいと食べ物まで

おいしくなるもの

いくら食べても まだまだ入っちゃう!!

きっと悟味西の味のせいですよネ。

萩中多恵子さん(左) 鹿内恵子さん(右)

宝飾店タジマ勤務

さんちかタウン
悟味西ちゃんこ場

味ののれん街 〈39〉 5319

AM11:30~PM9:30

鍋もの 悟味西
炉ばた

阪急西口 〈32〉 3220

〈2階〉

PM5:00~AM0:30

お茶漬・おむすび・鍋もの

ふる里

生田前筋 〈33〉 5535

PM5:00~AM0:30

お茶漬・おむすび・鍋もの 悟味西 / 阪急西口TEL (33) 3848 PM5:00~PM0:30